

「普通」

中林 静花

「ガコガコ！」

私の弟が自分のおでこを床に打ちつける音

だ。私の弟は自閉症である。弟が自閉症だと

分かったのは、2歳のころだ。生後4カ月の

ころから弟は自分の額を床に打ちつけはじめ

た。額を衝撃からまもろうと、手を差しよべ

ると、あまりの強さに涙が出る程だ。普通の

赤ちゃんなら、生後8カ月ごろには、物につ

かまひ歩く。しがれ私の弟はハイハイがや

とど、名前を呼んでも目も合せてくれない。

何だか周りと「違う」。私の弟が自閉症だと

分かってから、障がい者に対する私の考えが

変わった。

弟が産まれるまで、私は障がい者の方の存

在すら知らなかつた。障がい者の方を見ても

「変わった人だな」。くらいにしが思っていた

なか、ただが自閉症の弟と接していくうち

に、なぜ障がい者の方を見て「変だと思

うのが、普通とは何なのか、と思ふようになる
た。

普通とは何か、と聞かれると、答えるのは
とても難しい。私にと、ての普通とは、自
分から見れば、当分以前だと思ふ。その当分
以前は人それぞれで、例えば、勉強が得意な
子からすると、テストで九十点とるのが当分
以前でも、勉強が不得意な子からすると、テ
ストは五十点ぐらいが当分以前だ、たす
る。私たちが障がい者の方に対して、私たち

と違ふ、と思ふのは、私たちと障がい者の方
たちとの普通に、大きな違いがあるからだ。
だがこれは、悪い違いではなく、良い違いで
あると私は思う。良い違いを尊重する事はと
ても大事だ。しかる、障がい者を差別するよ
うな、悪い違いは、必ず正さなければならな
い。
では、私たちに何ができるのか。私の弟
は、何か難しい課題があ、た時、ヤ、て。
ではなく、手伝、て、と私たちに助けを求

める。私がその課題をすべて終わらせようとする。もういい、手伝い終わりの。といわれる。私の弟にも「自分で成しとげたい。」という気持ちがある。私は障がい者の方に対して、やる気や自尊心を失わないように、優しくサポートすることが大事なのではないかと考えた。そして私は障がい者の弟をもっ姉として、障がい者に対する偏見をなくしていきたい。たいと思つた。そのためには、障がい者の方と直接会つてみるのが一番良いと思う。障がい者に対する偏見をとろはらつて、障がい者の方からお話を聞いたリ、障がい者の方を支援している方から障がい者との接し方を教えてもらうだけでも、障がい者の方たちを知る良い機会になると思う。

ちがいを大切にしながら、相手も大切にでき、自分になりたいという気持ちをみんなに持てほしい。